

太平洋沿岸では高濃度クロロフィルaは確認されていない

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィルa濃度推定値の分布を示しました（図1～図2）。その結果、**太平洋沿岸では赤潮が疑われる高濃度のクロロフィルa領域は確認されませんでした**。12/10～22の赤潮モニタリングにおいても、カレンニア・セリフォルミス（Ks）は検出限界以下（ <0.1 cells/ml）の点が多くなっていました（12/22時点）。12/8には十勝総合振興局管内の閉鎖的な漁港内部のみ、高密度のKsが確認されましたが、12/10以降は高密度のKsは確認されませんでした。

12月時点でもKsの出現は確認されていますが、細胞数密度が非常に低いこと、日射・日照の低下や水温低下による鉛直混合によって、植物プランクトンが増殖しにくい環境が継続するため、**北海道周辺の冬季の海洋環境ではKs赤潮が発生する可能性は非常に低いと考えられます**。

以上の理由から赤潮緊急対応としての衛星画像情報は一旦終了いたします。ただし万が一赤潮の発生が確認された際は早急に臨時情報を提供いたします。また中央水産試験場海洋環境グループでは日々の衛星情報をHPで公開することを念頭にデータ処理を継続しますので、もし北海道周辺の衛星データで気になることがあれば個別にお問い合わせ下さい（TEL：0135-23-4020）。

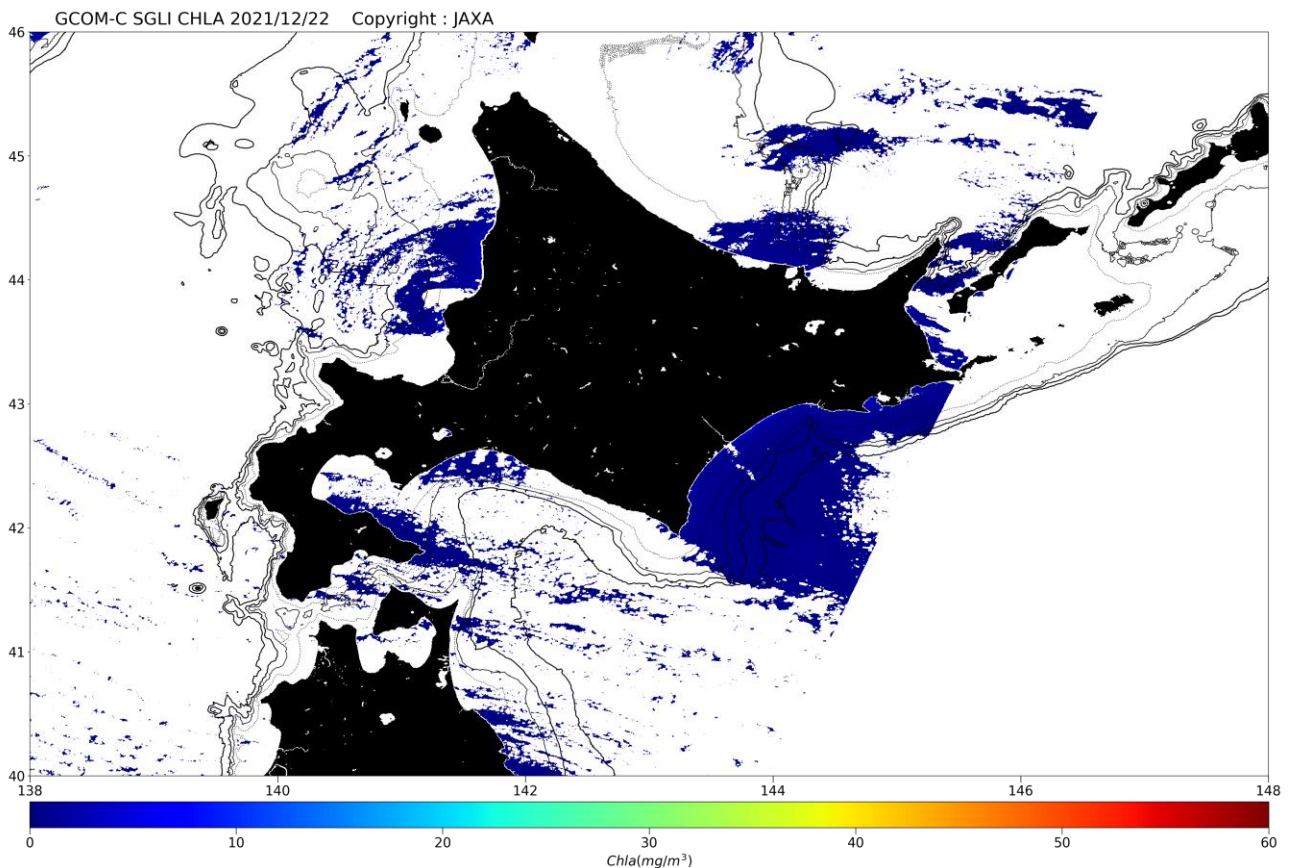


図1 2021年12月22日の表層クロロフィルa濃度（極端に高い領域を抽出するため0～60 mg/m³までの実数スケールに調整して作図）

等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィルa濃度は誤差を含むことがあり、表層のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィルa領域が全て赤潮とは限りません。増殖した珪藻類などの植物プランクトンや、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で高濃度領域を形成することもあります。

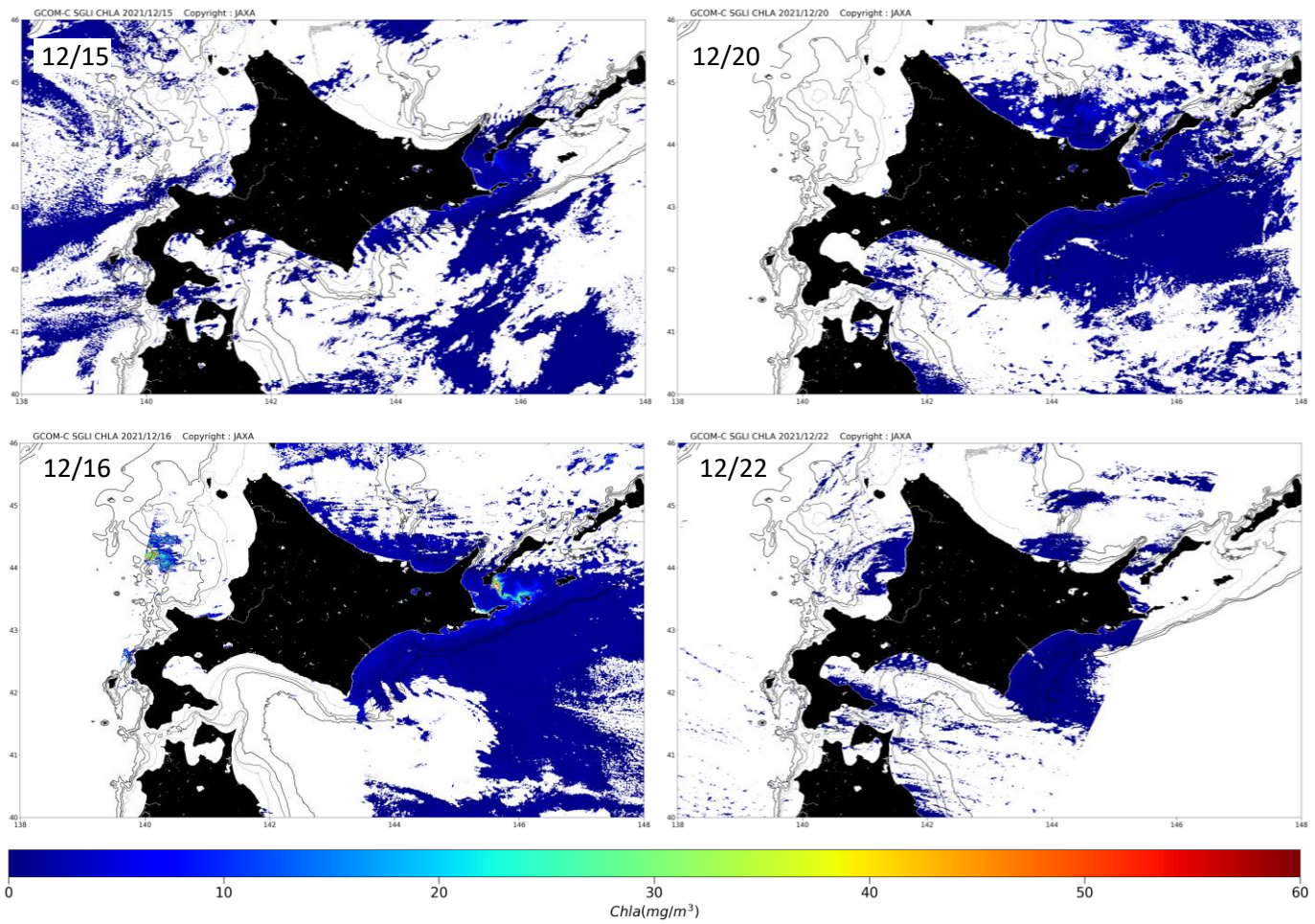
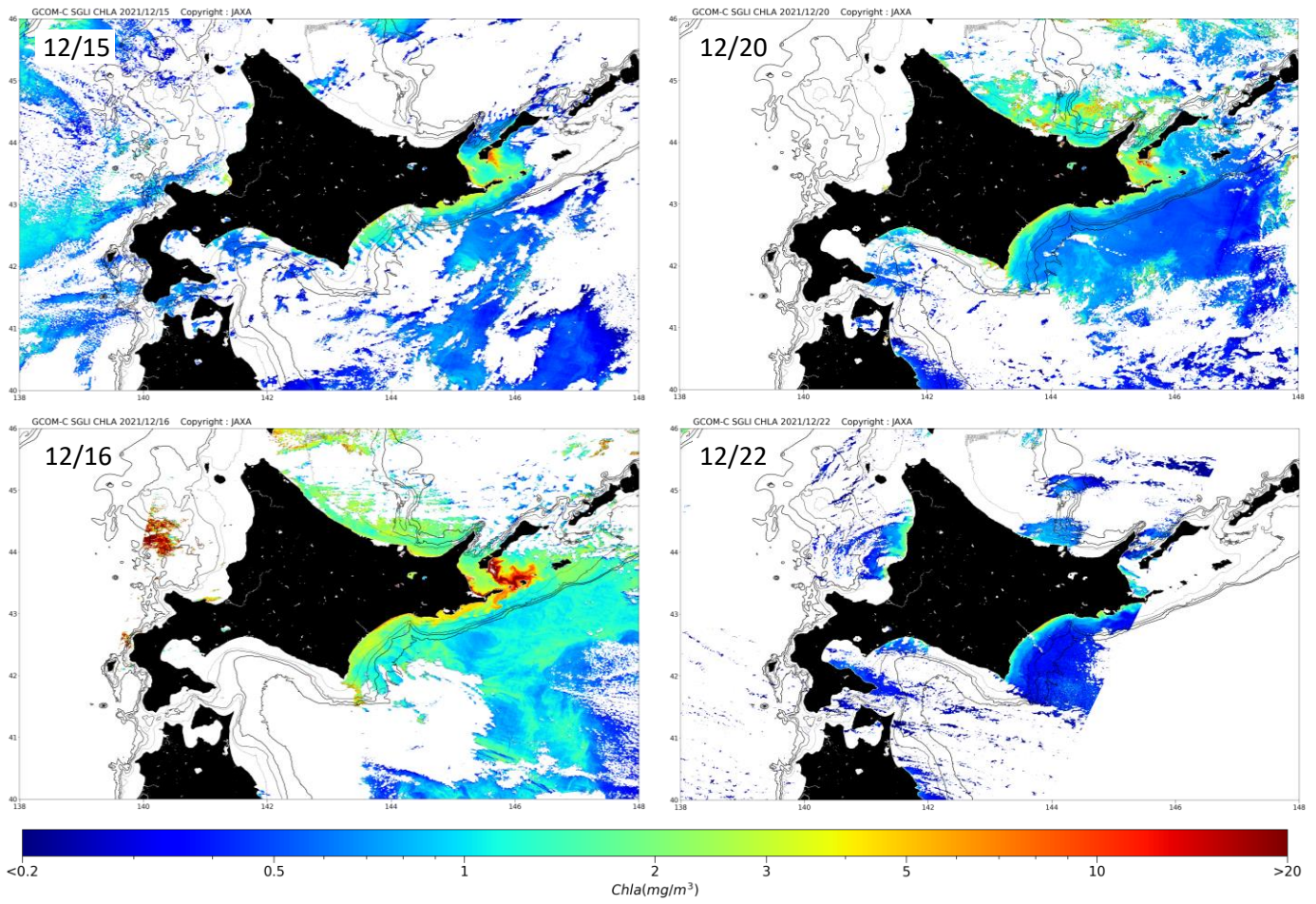
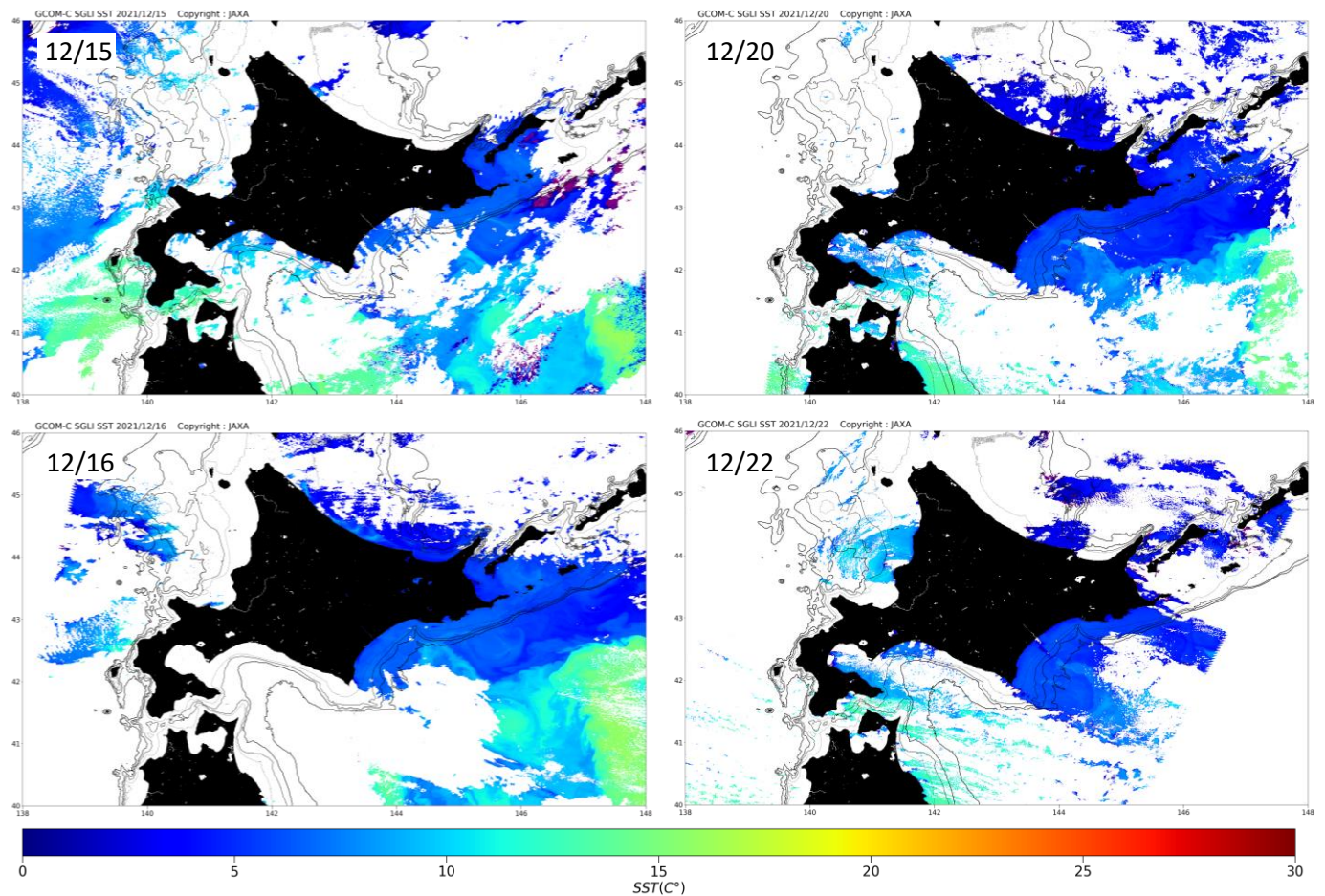


図2 12/15～12/22の表層クロロフィルa濃度 (0～60 mg/m³までの実数スケールで作図)
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m



参考図1 0.2～20 mg/m^3 までの対数スケールで作図した12/15～12/22のクロロフィル*a*濃度の衛星画像



参考図2 12/15～12/22の表面水温の衛星画像